

こうりん



内 容

- ・五重相伝会 受者感想文
- ・大施餓鬼法要のご案内
- ・施餓鬼について
- ・お盆の御飾りの仕方
- ・水のはなし
- ・戒名は死生観の表れ
- ・作ってみよう精進料理
- ・おだんか訪問

五重相伝会を終えて 住職 堤 俊翁

四月に五重相伝会を無事勤めることができました。約八十名の方が満行され、称名念佛の信者となりました。本堂にあふれる念佛の声に歓喜の思いを頂いて、これこそが浄土宗を開かれた法然上人様、歴代の住職方のご恩に報いる道だと感動いたしました。

念佛は精進するほど奥が深いものです

さて、本尊阿弥陀如来様は最近痛みがひどくなっておられました。文化庁の調査の結果、京都の国宝修理所に於いて、お顔と胸の修理を受けられることになりました。七月より半年ほどの間留守にされますので、この場をお借りしてお知らせいたします。

合掌

五重相伝に参加して

感想文



☆ 江崎 益美

今回、御縁あって五重相伝会に参加させていただき誠にありがとうございました。私事で失礼ですが、亡き夫の後には、精神的、肉体的と、何かしら自分がやらねばとただ気を張りすぎて、物事に振り回されながら、今日を

迎えたところでございます。

日頃、お寺様には佛を供養するために両手を合せて行くものだ、安易な考え方で過して参りました自分が、恥ずかしい様です。御先祖様を敬うのは当然ですが、自分自身が決断し立ち向かわねばならないとの教えをお聞きして、改めて考えさせられました。山上和尚様の勸誡を聞きながら、少しは佛様の理解が出来たと、思っております。小さい頃、親に連れられて下駄のはに雪がつまり、足元に注意しながら暗い夜道をお説教を聞きに行ったのを思い出しました。

山上和尚様の時々ユーモアに冗談めいて、解りやすく、法話をしていただく内容に「まさか私のことでは」と思われる様な、思い当るお話の内容に、一人で苦笑したものです。

今回一緒にさせていただいた皆様とも、最初は緊張したものの、日に日にお言葉を交わす様になり、楽しく五重相伝をお受けする事が出来、重ねて嬉しく思っております。今後は、一日一日の中に無理せず少しづつ今回の教えをお守り出来る様に心掛けがんばりたいと思います。

今後共に、どうぞお導きの程、よろしくお願い致します。ありがとうございました。

☆日課念佛三〇〇回以上に思う

秋山 圭司

念佛求道の法然様の像を正面に拝しながら五日間続けて、無量寺の門を入りました。

朝早く、久しぶりの出勤の気分であり、筑紫野市から朝の混雑をさけて、早目に家をでましたが、お念佛のお蔭、春うらの好天に恵まれた日々となり、妻と二人で五重相伝を無事に受けることが出来ました。

私自身は二度目になるので、妻の五重相伝を受けたという強い希望があり、身体が弱いので、送り迎えの運転手をするつもりで参加したのですが、勸誡師様の熱の入った説法に感動し、回向師様のすばらしいお経の声に聞き入っているうちに、次々と会は進行して厳肅な気持ちになっていきました。伝燈師様の正伝法のころには念佛する気持ちが満ちてきて、日課念佛三〇〇回以上とのお約束もすんなりと出来ていました。

“念死念佛”は善導寺にお参りするたびに目にする言葉ですが、さらに心にひびいて、ただ、ひたすらに南無阿弥陀仏とお称えする、その心をしかと感じた五重相伝でした。二回目を受けてよかったとつくづく思う次第です。

五重相伝をお導きくださった住職様と勸誡師様はじめスタッフの皆様は心より

お礼を申し上げる気持ちで一杯です。

妻が途中で体調をくずして、ご心配をかけましたが、五日間を最後まで、出席することが出来て感謝しています。

これからは、この機会にと購入して、木魚も二つ揃いましたので、日課念佛三〇〇回以上のお念佛を二人で続けていこうと思っております。



大施餓鬼法要のご案内

檀信徒各位

聖 名 いよいよ酷暑三伏の候と相成りました。

貴家ご一同様お変わりもなくお過ごしのことと拝察申し上げます。

平素、当山興隆のためには格別のご協力を賜りまして、誠に有り難く厚くお礼申し上げます。

さて、例年の大施餓鬼法要を久留米市浄土宗門中寺院ご出仕のもとに下記の通り、相つとめますので、何卒お繰り合わせご参詣下さいますよう、右ご案内申し上げます。 合 掌

平成 十六年 七月 上浣

無量寺住職 堤 俊翁 拝

※ 日 時…七月十五日（木曜日） 午後一時よりご回向
二時より説教

※ 布教師……（佐賀県神崎町 浄円寺）藤野 良海 師

※ ご回向料…特別塔婆回向……………一霊 五千円以上

※今年初盆を迎えられるご先祖様

※また特に志される霊位

（塔婆を持ち帰ってお盆までお家でお祭り下さい。）

普 通 回向……………一霊 一千円以上

ご志納下さい。

特別塔婆回向を申し込まれる方は、塔婆を書く時間が必要ですので、前もって申し込んでいただきますようお願い致します。 7月12日迄にお願いします。

お申し込みは郵送、ファックスでも結構です。 FAX0942-32-2701

初盆を迎えられるお宅へ



7月15日の大施餓鬼法要では今年初盆を迎えられる御霊の特別回向を行います。

志されるお宅の方は前もって申し込みして頂きますようお願い致します。

当日、回向、焼香の後、塔婆をお渡ししますので、お家に持ち帰って頂き、初盆の精霊棚に祭って御霊をお迎え下さい。

お盆が済みましたら、お寺へお持ちになって下さい。お寺でお炊き上げします。

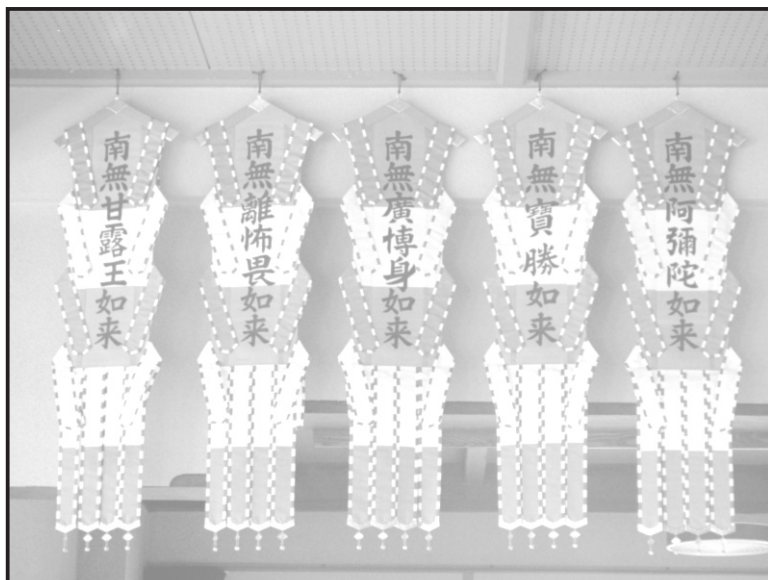
（以前は精霊船に乗せて流したものです。）現在は15日の夜、水天宮下の筑後川で、流し灯籠をたくさん流されています。

□ TEL 0942-32-3010 ご回向料は当日受付でお願いします。

※初盆のお詣りは後日ハガキにて日時をお知らせします。市外の方は13日より前になることもありますので、ご了承下さい。

せがきえ 施餓鬼会とは

餓鬼の為に諸種の飲食を施す法会で「施食会」とも「冥陽会」ともいう。本来は別に期日を定めず、随時に修す法会であったが、いつのころからか盂蘭盆会と混じり、盂蘭盆会るとき、またはその前後に行われ、餓鬼に施食する善根功德をもって、亡者の滅罪追福のために修せられるようになった。



その作法は供養壇を設け、五如来（あるいは七如来）の幡を懸け、壇上に三界万霊位牌を安置し、両側に新亡の位牌を並べ飲食などを供えて修するのである。

その壇は「施餓鬼棚」といい、幡は「施餓鬼幡」という。

五如来とは宝勝如来（多宝如来）、妙色身如来、甘露王如来、広博身如来、離怖畏如来をいい、施餓鬼会はこの五如来を本尊として修するものであって、その名号を称すれば、餓鬼をして滅罪生福、離苦得樂せしむることができるのである。

五如来

五如来の如来とは仏さまのこと。お施餓鬼の法要は五如来の幡をかけて修されます。幡は青、黄、赤、白、黒の五色です。この五色の幡に五如来の名が記されています。

青は空、黄は地、赤は火、白は水、黒は風の性質を表しています。

宝勝如来（多宝如来）

布施をせず、むさぼりの業をなしたため餓鬼世界で苦しんでいる者を救済し、円満ならしめる仏さま。この仏様は釈迦如来とともに多宝塔の中にまつられています。そして多宝如来と釈迦如来はもと同一のものとされ、二体並座した仏様は、すべての人々を、永遠に救い続けることを象徴しているのです。

妙色身如来

阿閼（あしゅく）仏のことです。悪行業のため、みにくい身体、形相の餓鬼を救う仏さま。妙（美しい）なる色身（からだ）の仏さまです。施餓鬼供養すれば、供養する私たちもおだやかな表情になれるのです。「阿閼」とは「無瞋恚」と同じ意味で、怒みや怒りを抱かないことだとされています。東方世界に妙喜浄土をたてた仏さま。

甘露王如来

阿彌陀さまのことです。

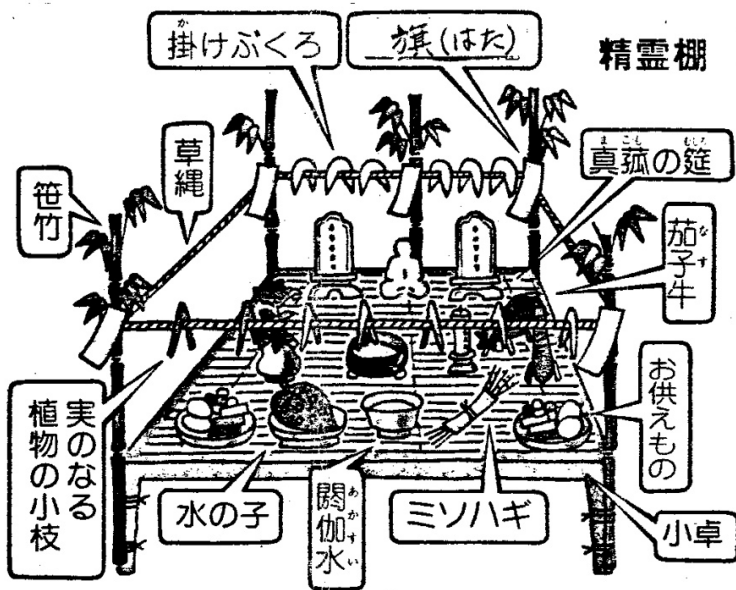
餓鬼世界は苦しみの世界です。その苦しみを取り除き、身心を快樂なさしめていただける仏さま。甘露とは、身心をうるおわしてくれることです。阿彌陀さまが無量寿如来、無量光如来と呼ばれているのはこの仏さまの智慧（光）と慈悲（寿）が無量（かぎりない）ということの意味しているのです。

広博身如来

大日如来のことです。食べたくても、のどが狭くて食べることができない餓鬼の咽喉を大きくして飲食の樂しみを与えてくださる仏さまです。宇宙の生命、人間、天地のすべてを仏格化した仏さまです。

離怖畏如来

お釈迦様のことです。餓鬼世界では、餓鬼は恐怖に悩まされています。その恐怖を取り除いていただけます。



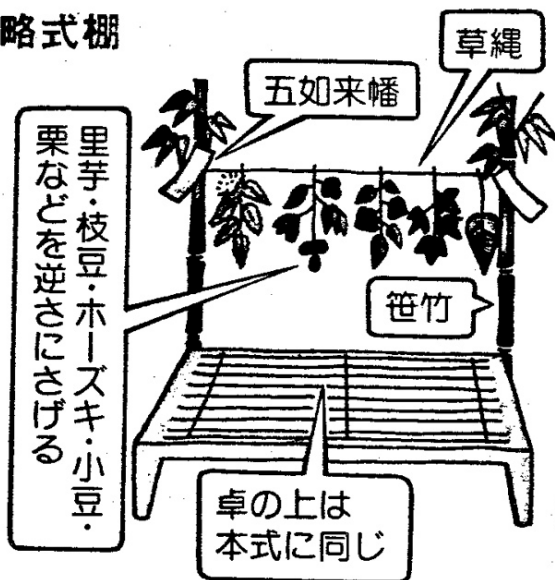
お盆の精霊棚

精霊棚はお盆の間、ご先祖様がおられるところです。毎日、家族の食事の前には供養をし、それから、食事を始めるようにしましょう。

地方によっては、この間の献立が厳格に決められているところもあります。

普通はそこまでしなくても、家族の食事の一部を供えたり、故人の好物を供えるということになるでしょう。

略式棚



※精霊棚が普段の仏壇と違うのは、水の子（茄子とキュウリを細かく刻んで洗米と混ぜたものを蓮か里芋の葉に乗せる）と関伽水（どんぶりに入れた供養の水）、それに茄子の牛とキュウリの馬を用意することくらいでしょうか。

※お参りの仕方

お参りする人は、ミソギハの束の先をどんぶりの関伽水に浸け、水の子にふりかけてから（洒水）、拝むようにします。

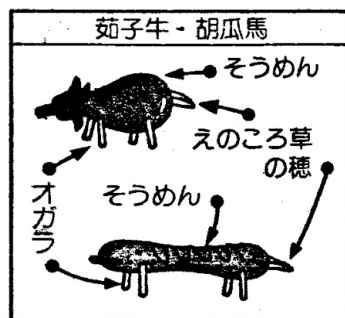
ミソギハは他のもので代用できます。お盆に祭られる精霊棚（しょうりょうだな）は別名、盆棚、魂棚、先祖棚ともいい、お盆の間、ご先祖様が宿るところといわれています。

期間中の供養はここで行います。仏壇とは別にするのが一般的なやり方です。

精霊棚は普通、10日から13日の朝までには作ります。

※新盆の家では、1日ごろから作るところもあります。

以上ごく一般的と思われることを説明しました。



「法雨を以て群萌を潤す」

水は法を司るものであり、法であるが故に何のものにもとらわれることなく
すべてになり得る。同時にすべては水の変化であるとも言える。

(如来の心聲) 別府 空由上人

「ありがとう」と「ばかやろう」

水を冷やして氷を作ると結晶ができます。氷の結晶を顕微鏡で拡大して写真に撮ろうとすると大変難しいそうです。マイナス15度Cで結晶をシャーレにいれると数十秒で溶けてしまいます。その難しい撮影に日本人が成功しました。試行錯誤をくり返してやっととれたそうですが、その過程で様々な結晶ができることに気がきました。

水道水と自然水では結晶の形がちがいます。自然水では六角形のきれいな結晶ができます。しかし、水道水ではできませんでした。

いろいろな結晶を見ている内に水は情報を得て結晶をつくるのではないかとそんなことを考え実験をしてみることにしました。

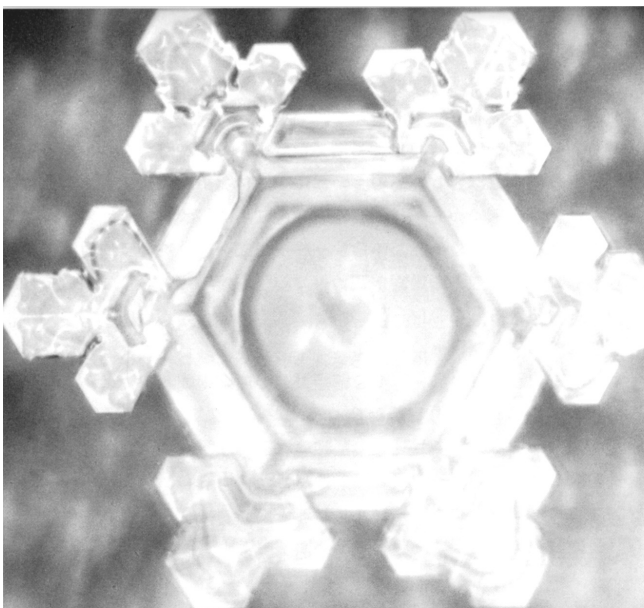
同じ質の水同じ量の水を入れた二つのコップに、2種類の言葉を書いた紙を貼って氷をつくります。すると一つの方には美しい六角形の結晶ができました。ワープロで書いたその言葉は「ありがとう」でした。ところがもうひとつのコップにできた氷には結晶ができませんでした。そのコップに貼った紙には「ばかやろう」と書いてありました。

どちらのコップの文字も中の水がその文字を読めるように貼りました。

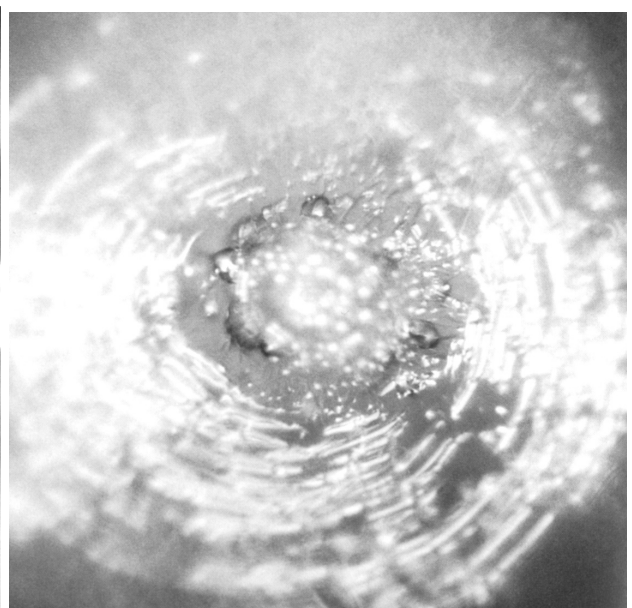
「ありがとう」と「ばかやろう」の他にも「幸せ」と「不幸せ」、「よくできたね」と「ダメだね」などの組み合わせでも結晶のでき方は違ったといいます。中でも一番美しい結晶を作ったのは「愛、感謝」だったそうです。私達人間の身体も70%は水分です。ほめられたり感謝されるといい気分になりますが、ばかやろうといわれると気分が悪いのは体内の水が反応しているからでしょう。人から優しくされたり、親切にされると「ありがとう」がでできますが、自ら進んで「ありがとう」を多く口にすることでより多くの水がそれを感じ取り水もよくなっていくこともこの実験からいえることのようにです。

参考文献 水の「真」力 江本 勝 著 講談社 刊

ありがとう



ばかやろう



戒名についての一考

私たちの霊魂観と深く結びついた『魂の養育費』と考えるべき。

二村 祐輔

文化的な意味合いにおいて、私は戒名は必要だと考えます。それは古来から伝わる日本人の死生観と深く結びついているからです。幼名にはじまり、元服をして名前をもらい、役職につくと役職名で呼ばれ、隠居すると「〇庵」のような名前を付ける。これは節目節目に名前を変えて行くことによって今までの自分をリセットするという考え方です。かつて私たち日本人は、生まれてから死ぬまでを半生、その後を後生と呼びました。半生と後生が一つの円として完結することを一生と考えたのです。その中では死は大きな節目でした。そこで死に際しても新しく名前をもらえたらいいなという深層心理があり、そこに仏教が日本独自の文化として戒名を作った。戒名の文化を削ぐことは、私たちの文化の半分を削ってしまうことになります。

日本人の死生観の根底にあるのは、人が生まれる時と死ぬ時は同じ状態だということです。生まれた時のしきたりが共通しているのはそのためです。たとえば産湯を浸かって産着を着せる。死に水をとって死装束を着せる。産（うぶ）の

穢れがあれば死の穢れがある。生まれた子に名前が必要のように、亡くなった人にも名前が必要だという思想があるので

誰が名前をつけるのかと言えば、子どもを育てる親です。かたや亡くなった人の魂を育てるのはお坊さんです。一般の人は死後の名前の命名料としてお礼を払うのだと誤解しがちです。ここに間違いがあります。

お坊さんは亡くなった人の魂を子どもに見立て、日々忙しい遺族に代わり、お経をあげて育てていく魂の里親なのです。戒名料はそのための養育費だと考えればいいのです。

戒名をつけるにあたって、一番避けてもらいたいのは葬儀社に「いくらか」と聞くことです。

通販生活掲載の記事より抜粋

二村 祐輔

ふたむら・ゆうすけ

1953年、東京都生まれ。
葬祭コンサルタント。

葬儀社に18年勤務後、
葬儀業界全体の形骸化傾向
に疑問を持ち調査・研究。

現在「日本葬祭アカデ
ミー教務研究室」の主宰。
著書に「大往生の値段」
（近代文芸社）など。

作ってみよう精進料理

ぎぜん飯

{浄土宗かるな} より



材 料

お米	3カップ (600cc)
黒豆 (クロマメ)	50g
塩	少々
清酒	大さじ1杯

作り方

1. 黒豆をなるべく厚い鍋で煎る。煎じ方は強火で、豆の黒皮がはじけ、中身がキツネ色になるまで煎るのがコツ。
2. 煎った豆を十分にさます。さめた豆を有り合わせの布の袋に入れ、木づちで小さく砕く。
3. ご飯の水加減は、普通のご飯の炊き方と同じ。米3カップ、煎って砕いた黒豆50gを炊飯器に仕込み、清酒、塩で簡単に味付けして、炊き上げる。



柁1本 田中 邦弘殿 寄贈



おだんか訪問

記念品・贈答品

トミヤ

故平木三郎さんが奥さんと昭和34年9月10日に創業されたそうです。当初金融品や靴などを扱われていたそうですが、記念品などをメインにされてから拡張のため現在の店舗を構えられました。現在は2代目の慎一郎さんがあとを継がれ、お母様と仲良く店頭に立たれています。

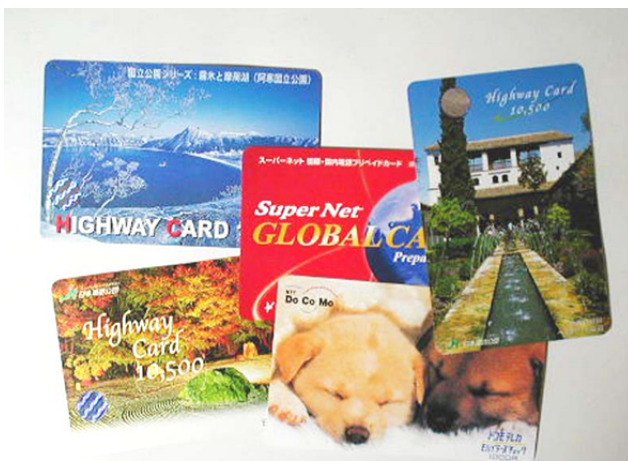
久留米市本町18-28

TEL 0942-33-2316

だるまさん

年間5回の法要（御忌、彼岸、施餓鬼、十夜）の法話、念佛講、14日会等に参加された方に渡しています。

100だるま以上集められた方には無条件で、お戒名に院号をお贈りします。お札に名前を書いて保管しておいて下さい。



使用済みのカードがありませんか？

使用済みのプリペイドカード（テレホンカード、ハイウェイカードなど）がありましたら、お寺へ御持参下さい。

国際協力事業団（JICA）を通じて世界中の子供達の医薬品や医療器具などを購入する資金を得るための活動に役立てていただきます。

世界中のカード収集家に販売してその収益が当てられます。

香林山 冷智院 無量寺
機関誌 こうりん

第34号 平成16年7月1日発行

〒830-0044 福岡県久留米市本町8-4

TEL 0942-32-3010 □ FAX 0942-32-2701

郵便振替口座 01750-7-16114

URL <http://www.muryoji.net>

E-mail info@muryoji.net